

平成23年度 事業報告書

(自 平成23年4月1日～ 至 平成24年3月31日)

社会福祉法人 南陽市社会福祉協議会

平成24年5月29日 提出

平成24年5月29日 承認

平成23年度 南陽市社会福祉協議会事業報告 ーはじめにー

バブル経済が崩壊し、消費や雇用に悪影響を及ぼした1990年代初頭から2000年代初頭までの「失われた10年」と戦後最長となった「いざなぎ景気」（注：「リストラ景気」・「無実感景気」等の別称があり、輸出産業集積地や首都圏・基幹都市部以外の地方では恩恵がなく、豊かさを感じない好景気と揶揄された。）の期間を含め、世界金融危機や欧州経済危機、そして東日本大震災・原発事故と続く期間を俗称「失われた20年」と解釈する向きもあり、日本経済の回復の兆しは見えず、先行きは不透明を増すばかりとなっている。平成23年度中に内閣府が公表した月例経済報告でも「景気は依然として厳しい状況にあり・・・」と通年にわたって報告されている。

また、少子高齢社会の進行で独居高齢者や高齢者のみの世帯が増大する中、地域コミュニティ機能の低下など多種多様な生活課題が顕在化し、大きな社会問題となっている。

本協議会ではこのような情勢を踏まえ、①生活困難者等に対する生活支援と自立支援 ②高齢者等に対する在宅福祉向上と介護予防 ③介護保険事業の安定的経営 を重点目標に掲げ『みんなが笑顔で安心して暮らせる福祉のまちづくり』の構築を目指し、住民の主体的参加によって支え合う地域福祉活動の充実・強化を図ってきた。

経済が悪化すると真っ先に影響を受けるのは、失業した人とその家族、経営基盤の弱い零細企業や個人、そして生活基盤の弱い高齢者・障がいをもった人達等である。このため、生活費や教育費等に充てる生活福祉資金貸付事業、相談事業を実施してきた。この利用者数は、平成21年度以来高い水準で推移しており、非常に厳しい生活実態を表している。

よく、「生活保護は最後のセーフティネット」と言われるが、この貸付資金は「網」に漏れた人や生活保護に移行するためのつなぎ資金としても活用されている。

本市の高齢者の状況は、高齢化率27.6%、高齢者単身世帯865人、高齢者夫婦世帯1,001世帯（平成24年2月 南陽市高齢者福祉計画・介護保険事業計画より）と増加の一途をたどっている。このため、健康や経済不安を抱えている人も多いことから、昨年度小地域福祉ネットワーク事業を立ち上げ、見守りや手助け活動を行ってきた。まだ緒に就いたばかりであるが支援組織も広がりつつある。

また、新規事業として、冬季間閉じこもりがちになりやすい高齢者等世帯への除雪支援を行い、孤立化防止と見守り活動を行う「助け合い除雪体制づくり事業」を実施した。除雪機械等の導入が遅れたこともあり実働期間は短かったが、次年度以降の事業拡大を願うものである。

同じく新規事業として、先の東日本大震災と放射能汚染の影響に不安をもち本市に避難している方は、平成24年2月末現在129世帯、399人（市危機管理課調べ）を数えている。山形県が平成23年11月に実施したアンケートによると、避難されている方々は不慣れた土地で生活・暮らしに大きな不安を抱えていることが判明した。このため、見守りと相談、情報の提供や

地域内での交流づくりなど避難者の孤立化防止に取り組む生活支援相談員2名を配置し、3月より訪問活動、サロン（お茶会）、おかあさんとこどもの広場等の事業を行っている。

介護予防活動については、はつらつクラブ事業や高齢者地域サロンなどが定着し、参加者数、組織数とも年々増加しており活動内容も充実してきた。

本協議会が実施する介護保険事業は、介護従事者等の人材確保のための介護従事者の処遇改善に関する法律（平成20年法律第44号）の成立により介護報酬がプラスに改定され、本年度も剰余金を計上することができた。

なお、これまで本協議会の情報伝達手段は年3回発行の広報誌のみという脆弱なものであったが、本年度ようやくホームページを開設することができた。必要な情報を必要なときに伝達できるよう、また双方向での情報交換ができるよう内容の充実を図っていきたい。

昨年度に創立40周年を迎え、本年度新たな第一歩を踏み出した協議会活動は、変動する社会、多様化する住民ニーズ、そして福祉観の変革に的確に対応していく必要がある。地域福祉の中核的な推進機関として、その役割はますます大きくなっている。

今後とも、地域の福祉力を高めていくため、市民、行政、支部協議会、民生委員・児童委員など関係福祉団体等と連携・協働し、総合的・計画的に地域福祉の推進を図っていくものとし本年度の総括とする。

【1】法人の運営・管理

1. 理事会の開催

《第131回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・期日 平成23年5月23日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事 (1) 平成22年度南陽市社会福祉協議会事業報告書の認定について
(2) 平成22年度南陽市社会福祉協議会一般会計決算書の認定について
(3) 平成22年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計決算書の認定について
(4) 評議員の改選について（役職交替による改選）

《第132回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・期日 平成23年5月23日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事 (1) 副会長の選任について
(2) 会長職務代理者の順位の指名について

《第133回理事会》 出席者 会長・副会長・常務理事・理事・監事・事務局

- ・期日 平成24年3月28日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・議事 (1) 平成23年度南陽市社会福祉協議会一般会計補正予算（案）について
(2) 平成23年度南陽市社会福祉協議会福祉活動功労者表彰並びに感謝状の贈呈について
(3) 平成24年度南陽市社会福祉協議会事業計画（案）について
(4) 平成24年度南陽市社会福祉協議会一般会計予算（案）について
(5) 評議員の改選について
(6) 育児・介護休業等に関する規則の改正について
(7) 就業規則の改正について
(8) 平成23年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計補正予算（案）について
(9) 平成24年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計予算（案）について

2. 評議員会の開催

《第99回評議員会》 出席者 会長・副会長・常務理事・評議員・理事・監事・事務局

- ・期日 平成23年5月23日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（健康教育室）
- ・議事 (1) 平成22年度南陽市社会福祉協議会事業報告書の承認について
(2) 平成22年度南陽市社会福祉協議会一般会計決算書の承認について
(3) 平成22年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計決算書の承認について
(4) 理事の改選について（役職交替による改選）

《第100回評議員会》 出席者 会長・副会長・常務理事・評議員・理事・監事・事務局

- ・期日 平成24年3月28日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（健康教育室）
- ・議事 (1) 平成23年度南陽市社会福祉協議会一般会計補正予算（案）について

- (2) 平成24年度南陽市社会福祉協議会事業計画（案）について
- (3) 平成24年度南陽市社会福祉協議会一般会計予算（案）について
- (4) 理事の選任について
- (5) 平成23年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計補正予算（案）について
- (6) 平成24年度山形県共同募金会南陽市支会一般会計予算（案）について

3. 監事会の開催

《監査実施》 出席者 監事・会長・常務理事・事務局

- ・期日 平成23年5月17日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・内容 (1) 平成22年度南陽市社会福祉協議会事業全般について
(2) 平成22年度南陽市社会福祉協議会諸決算について

《監査実施》 出席者 監事・会長・事務局

- ・期日 平成23年11月4日
- ・会場 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
- ・内容 (1) 平成23年度南陽市社会福祉協議会上半期事業について
(2) 平成23年度南陽市社会福祉協議会上半期一般会計について

【2】低所得者に対する事業

1. 生活福祉資金貸付事業

景気や雇用情勢の低迷、多重債務や複雑な家庭環境等から、総合支援資金や緊急小口資金をはじめとする貸付相談があとを絶たず、失業者や低所得者への支援強化に努めてきた。民生委員・児童委員や関係機関との連携を密にし、貸付の支援や償還指導をおこなってきた。

《内訳》

資金の種類		件数	貸付金額(円)
総合支援資金	生活支援費(新規)	6	1,946,000
	生活支援費(延長)	13	2,865,000
	一時生活再建費	2	449,000
福祉資金	福祉費	1	400,000
	緊急小口資金	13	1,090,000
教育支援資金	教育支援費	4	5,490,000
	就学支援費	5	1,556,000
合計		44	13,796,000

2. たすけあい金庫貸付事業

緊急を要する低所得世帯への援助活動として、無利子で生活費等の貸し付けをおこなった。また、これらの要望に常時即応できる体制の確立に努めた。平成23年度の新規貸付は、16件959,799円と深刻な状況を表している。(1件に対する貸付限度額は、80,000円)滞納者について、借受者・保証人等に現在の状況や償還状況・今後の計画等の償還指導を民生委員・児童委員の協力を得ておこなった。

3. 善意銀行の運営

市民の方から善意の寄付金や物品の数々を預託いただき、生活に困窮している方々へ緊急的支援やタオル等の寄付物品を払い出し、善意の交流をおこない有意義に活用した。

《内訳》

種 別		件数	金 額 (円)	種 別		件数	金 額 (円)
預託	金品預託	4	24,400	払出	支援金	5	15,800
	物品預託	3	—		見舞金	5	45,000
預託合計		7	24,400		緊急貸付	21	471,371
					物品払出	4	—
					払出合計	35	532,171
				貸付返還金	52	531,356	

【3】 ボランティア活性化事業

1. 在宅福祉事業

(1) 生活支援型給食サービス事業（毎週水曜日・昼食）

介護保険制度では対応不可能なサービスとして、食事の調理をすることが困難な高齢者のための援助活動をおこなってきた。また、ボランティアが宅配することで高齢者とふれあい、一人暮らし老人の孤独感解消を図るため、見守り援助も行なった。（総配食数 1,335食）

(2) 総合相談所の設置・運営

総合相談事業を通して、個別ニーズに適切に対応するため、相談員間及び関係機関との連携を図りながら取り組んだ。相談所の広報は、市報掲載（毎月）、社協だより「あい」への掲載による周知活動をおこなった。

《相談体制》

- ・毎週金曜日 午後1時30分～4時 南陽市健康長寿センター（創作研修室）
相談員8名（民生委員・児童委員、学識経験者）
- ・毎週月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分 南陽市健康長寿センター
ボランティアに関する相談（ボランティアコーディネーター）

2. 住民参加型非営利活動推進事業

(1) 災害救援活動「炊き出し訓練」

南陽市総合防災訓練（平成23年10月16日開催）給食訓練に参加。南陽市ボランティア友の会を中心におこない、ハイゼックス包装袋を使用して180食作った。

(2) ボランティアセンター事業

ボランティア活動をしたい人、活動に参加したい人、ボランティアから支援を受けたい人の調整を図り、市民参加の基盤を広げてきた。

《施設・在宅ボランティアコーディネート》

- ・福祉施設や在宅を訪問し、歌や踊りを披露しながら、入所者の方々と交流する機会や、技術を活かした活動等の調整設定をおこなった。
- ・高齢者の一人暮らし宅への給食サービス、冬季の除雪等の相談や活動の調整設定をおこなった。

(3) 広報誌の発行

社会福祉協議会の事業内容等について、広くご理解いただけるよう社協だより「あい」を発行した。(6月、10月、3月)

(4) ホームページの開設

ホームページを立ち上げ、本会の事業などについての紹介をはじめ、お知らせやボランティアの募集などをおこなうことができる体制を整備できた。

3. 福祉教育推進事業

(1) 福祉教育協力指定校事業

市内全小学校、中学校、高等学校を福祉教育協力指定校とし、子どもたちの豊かな心を育む福祉教育実践を展開していただいた。学校から地域に出て体験をしたり、地域から学校に招待したりしながら、心あたたまる交流活動がとても喜ばれている。また、福祉教育協力校の自主活動として、プルタブの収集や1円玉募金活動を行い、物資による支援を必要とするところへの贈呈活動などもおこなわれた。

(2) ボランティアの育成と活動拠点の開拓

《ぼらんていあひろば ぴよっこ》

少子化や核家族化が進む中、子どもたちが多様な人々と共に地域社会の中で暮らしていくことの大切さを知り、他者との関わりの中で、より良い生き方を考えるきっかけとして、ボランティア活動を体験し、学んでいく必要性が高まっている。子どもたちが様々な人との交流を通し、自分や地域を見つめ、自分たちに何ができるかを考え活動できるよう、福祉教育サポーターの支援を得ておこなった。

《中高校生ボランティアサークル「にじ」》

施設夏祭りでの車椅子介助や事業協力、車椅子みがき、ごみ拾い、落ち葉清掃、赤い羽根共同募金街頭活動、「ぼらんていあひろば ぴよっこ」の交流会企画・運営などをおこなった。

【4】支部社協との連携事業（地域福祉振興活動事業）

1. 支部長及び担当者会

支部社協との連携及び情報交換のため、支部長及び担当者会議を開催した。（6月、10月）

2. 敬老会事業への協力

市内9地区において各地区実行委員会を中心に、地域ならではの催し物を実施した。参加者は年々減少傾向にあるが、地域の中で高齢者を支え合う小地域ネットワークの一端を担った事業である。

《開催期日及び招待者数》

地区	開催期日	式典会場	招待者(名)	出席者(名)	主な催し物
梨郷	9月4日	梨郷小学校体育館	367	106	防犯講話、遊戯、他
中川	9月11日	中川公民館	305	95	歌、踊り、カラオケ、他
漆山	9月12日	語り部の館	560	122	遊戯、歌、舞踊、他
宮内	9月16日	蔵楽	1,375	280	竹川美子歌謡ショー
沖郷	9月18日	沖郷小学校体育館	1,013	202	マーチング、合唱、他
金山	9月18日	ハイジアパーク南陽	128	55	踊り、合唱、カラオケ
小滝	9月19日	小滝文化センター	67	33	合唱、舞踊
赤湯	9月22日	南陽市民会館	1,711	200	遊戯、合唱、太鼓、他
荻・下荻・太郎	9月25日	荻小学校体育館	141	80	遊戯、踊り、民謡、他
合計	—	—	5,667	1,173	—

3. ふれあい給食サービス事業

地域の方(支部社協・ボランティア)がその地域にお住まいの高齢者に対して、ふれあいと安否確認及び激励を目的に開催した。小学生によるメッセージカードも大変元気づけられ喜ばれた。

(市内8地区 年1～2回実施)

《実施期日及び配食数》 総配食数 899食

地区名	宮内	梨郷	中川	赤湯	金山	吉野	漆山	沖郷	
期日	12月7日	12月11日	2月2日	11月22日 2月14日	12月4日	12月2日 2月3日	12月8日 2月9日	12月22日 2月3日	
配食数	179	57	74	278	35	59	76	149	
対象者 (延)	男	59	21	27	55	17	16	20	48
	女	120	36	47	223	18	43	56	101

【5】受託事業の推進

1. 戦没者追悼式受託事業

地区	戦没者柱数	地区助成金（円）	慰霊祭開催期日	慰霊祭会場
漆山	140	70,000	5月10日	珍藏寺
宮内	233	116,500	6月10日	蓬莱院
中川	100	50,000	6月16日	中川地区忠魂碑
金山	46	23,000	7月9日	東禅院
梨郷	120	60,000	7月10日	梨郷神社
沖郷	205	102,500	9月4日	高福寺
赤湯	228	114,000	9月16日	烏帽子山八幡宮
吉野	91	45,500	10月23日	吉野公民館
合計	1,163	581,500	—	—

2. 福祉バス管理運行事業

市内の福祉関係団体（民生委員児童委員協議会、ボランティア団体、老人クラブ、支部社協、他）による各種研修会、福祉大会の参加、ボランティア活動等のために利用された。安全な運行に留意しながら事業を実施した。

月別	運行日数 （日）	運行回数（回）			乗車人数 （人）	走行距離数 （km）
		市内	県内	県外		
4月	5	3	2	0	102	326
5月	10	2	6	2	262	1,570
6月	13	2	9	2	374	1,649
7月	17	3	11	3	408	2,091
8月	13	4	10	0	358	1,393
9月	17	8	10	0	445	2,040
10月	25	4	19	3	696	3,912
11月	19	8	7	4	412	2,514
12月	5	3	1	1	115	330
1月	11	9	2	0	225	555
2月	13	12	2	0	291	538
3月	11	4	6	1	302	903
合計	159	62	85	16	3,990	17,821

【6】共同募金の推進

1. 赤い羽根共同募金運動

市民の皆様から戸別、職域、そして街頭での募金活動（市内5店舗）を実施し、あたたかい善意の募金が寄せられた。

頂戴いたしました貴重な募金は、身近な地域福祉活動に役立たせていただいている。

区 分	募金額
地域個別募金	3,804,630 円
職 域 募 金	104,076 円
街 頭 募 金	95,827 円
法 人 募 金	0 円
その他の募金	11,881 円
合計	4, 0 1 6, 4 1 4 円

2. 歳末たすけあい運動

共同募金の一環として、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に支援を必要とする人たちが、地域で安心して暮らすことができるよう運動を推進した。

《歳末たすけあい運動推進会議の開催》

期 日 平成23年10月20日（木）

会 場 南陽市健康長寿センター

内 容 ・運動推進要綱について・配分対象者の基準について

《歳末たすけあい運動配分委員会の開催》

期 日 平成23年12月15日（木）

会 場 南陽市健康長寿センター

内 容 ・配分対象者の決定について・配分額の決定について・伝達関係について

【募金額】合計 **3, 0 2 4, 3 1 2 円** 地域個別募金 **2,530,120 円**

篤志募金 **348,386 円**

配分対象者	人 数 等	配 分 額
低所得世帯の幼児(小学生未満)	19名	47,500円
低所得世帯の小学生	75名	262,500円
低所得世帯の中학생	47名	211,500円
低所得世帯の高校生	31名	186,000円
低所得世帯の世帯主	155名	1,162,500円
低所得の一人暮らし老人	130名	845,000円
特別要援護配分	8名	36,000円
東日本大震災等支援団体	3団体	60,000円
小 計	465名・3団体	2,811,000円
運動推進経費	振込手数料・のし袋等	58,845円
小 計	(上記)	58,845円
合 計	465名・3団体	2,869,845円

※残金は次年度繰越

3. 災害義援金

(1) 平成23年3月11日発生した東日本大震災について、被災者への募金活動をおこなった。

団体・個人、また街頭募金や大会等で募金箱の設置等のご協力をいただいた。

総額 1,358,065円 (59件)

(2) 平成23年7月29日30日発生した福島県豪雨災害・新潟県豪雨災害について、被災者への募金活動をおこなった。 総額11,320円

【7】介護予防・地域ささえあい事業

1. 地域福祉権利擁護事業（福祉サービス利用援助事業）

高齢者世帯の増加、障がい者の地域移行が進む中、地域生活を支える支援事業として、相談・契約等をおこない利用者の増加につながった。支援員4名体制で、高齢の方や障がいのある方に、福祉サービスの情報提供や利用手続き・日常的な金銭の出し入れのお手伝いをおこない、重要な書類等を紛失しないようにお預かりして、安心して暮らせるように支援した。

相談件数	契約締結件数	解約件数	実利用者数	支援活動実績
150件	3件	4件	16人	332件

2. 地域介護予防活動支援事業

(1) はつらつくらぶ事業

介護保険対象外の元気な高齢者を対象に、居宅への閉じこもり、寝たきりや認知症の予防を目的として、老人いこいの家・健康長寿センター・防災センター・文化センター等で、健康維持や各種趣味活動を開催した。

事業回数	総利用者数	男	女
220回	3,903人	346人	3,557人

(2) 高齢者地域サロン

高齢者が住みなれた地域において自立した生活を継続するために、介護予防の視点からその心身機能の維持向上の機会が必要である。そのために、交流の場の充実を図ることで、要介護状態等になることを予防できることから、自主的に組織化を図ろうとする地域活動の支援をおこなった。（助成対象サロン69団体）

また、高齢者地域サロン支援者等の育成のため、研修会を開催した。

《高齢者地域サロン支援者研修会》

期 日 平成24年3月9日

会 場 ハイジアパーク南陽

人 数 86人

内 容 講演「こころと命を考える」

～命をつなぐ一杯のコーヒーと語らい～

講師 月宗寺 住職 袴田 俊英 氏

演習「サロンでできる簡単レクリエーション」

指導 南陽市社会福祉協議会 中條 友理

3. 小地域福祉ネットワーク事業

長寿社会の進展に伴い、一人暮らし高齢者が急激に増加したことで、健康不安や経済的不安で悩んでおられる高齢者が、近年、一段と増えている。また、育児放棄や家庭内での児童虐待など、私たちの地域社会においては、これらのどの事例を取り上げても看過できない重要な課題となっている。

地区内において、住民が自主的に連絡・協力体制をとって、高齢者、障がい者、子育て中の親などを見守り、手助けをする活動体制の構築が求められている。

本会では、関係者による研修会を開催したり、活動地区における学習会や相談に応じた。

《小地域福祉ネットワーク活動研修会》

期 日 平成23年8月4日
会 場 ハイジアパーク南陽
人 数 110人
内 容 講演「わかる！できる！地域支え合い仕組みづくり」
演習「仕組みづくりの手法」
講師 東北公益文科大学専任講師 鎌田 剛 氏

4. 地域支え合い事業及び助け合い除雪体制作り事業

一人暮らしや高齢者世帯等の方々には、冬季間の積雪や寒冷、日照時間の減少等により行動範囲が狭められ、特に除排雪が困難であることから家に閉じこもりがちになる傾向がある。小地域単位のサロン活動や老人クラブの友愛訪問による孤立化防止と見守り活動を継続し、さらに、除排雪の困難な世帯には、ボランティア等による除排雪の支援活動をおこない、冬季間も安心して生活できる体制を構築するため、次の事業をおこなった。

(1) 研修会

事業の趣旨や内容等を市民・地域に周知し、地域福祉に対する関心と理解を深めるため、研修会を開催した。また、活動を担うボランティアの方には、各種福祉情報の提供や知識習得の場として活用を図っていただいた。

期 日 平成23年12月1日
会 場 ハイジアパーク南陽
人 数 103人
内 容 講演「豪雪地域における雪対策」
講師 尾花沢市民雪研究会 運営部会長 二藤部 久三 氏
学習発表「福祉のまちづくり」
発表者 南陽市立漆山小学校6学年児童（担任 西山俊樹教員）
説明「南陽市除雪支援事業について」
「南陽市社協地域支え合い・助け合い除雪体制づくり事業について」
「NPO法人おいたまサロン除雪支援事業について」

(2) 視察研修会

豪雪地帯であり、地震や豪雨の被災地における支援活動について、視察研修をおこなった。

期 日 平成23年11月8日～9日
視察先 新潟県南魚沼市社会福祉協議会、新潟県十日町市社会福祉協議会
参加者 市社協会長、常務理事、理事、職員（計7人）

(3) 除雪機械等の貸出し

高齢者及び身体障がい者世帯等に対し、除雪・排雪支援等をおこなう地域の方やボランティア等に除雪機械、車両及び用具等の貸出しをおこない、高齢者等の冬季間における日常生活不安を軽減し、閉じこもり防止や災害時避難経路を確保できるよう整備した。

（除雪機 2台、軽トラック 1台、アルミブリッジ 1組、携行缶等）

(4) 支援団体への交付金交付

高齢者及び身体障がい者世帯等に対し、見守り活動や除雪支援活動等を実施し、高齢者等の地域における自立した在宅生活の継続を図り、地域福祉の増進を図ることを目的として交

付金を交付した。

《地域支え合い活動》

高齢者及び身体障がい者世帯に対し、見守り活動等を実施し、高齢者等の地域における自立した在宅生活の継続を図る。

(宮内 1カ所、沖郷 1カ所、漆山 18カ所、 合計20カ所)

《助け合い除雪活動》

高齢者及び身体障がい者世帯等、除雪困難な世帯の除雪をおこない、冬季間の生活を安心・安全に暮らすことができるよう支援する。

(金山 1カ所、沖郷 1カ所、漆山 1カ所、中川 1カ所、 合計4カ所)

(5) 広報・周知体制整備

事業の周知をはじめ、ボランティア募集や機械・器具等の周知にホームページを活用し、広く迅速におこなうことができるよう体制を整えた。

5. 避難者生活相談支援事業（県社協受託事業）

東日本大震災により市内に避難している世帯（事前アンケートによる希望世帯）を訪問し、生活上の困りごとや不安を感じていること等を把握し、必要な福祉サービス等につなぐとともに、地域住民や民生委員・児童委員、ボランティア、NPO 等と協力しながら避難者の生活支援に取り組むため、生活支援相談員を2名配置した。（平成24年2月より）

(1) 導入研修

期 日 平成24年3月2日

会 場 南陽市健康長寿センター

講 師 山形県社会福祉協議会 地域福祉部 地域福祉係長 渡邊 陽 氏

内 容

- ・社会福祉協議会の役割、社会福祉協議会が目指しているもの
- ・生活支援相談員に期待する役割
- ・避難者に寄り添う（理解する心「傾聴」）
- ・情報共有の大切さ（チームで対応）

受講者 生活支援相談員（2名）、事務局長

(2) 訪問活動

初回訪問（自己紹介）を2日間にわたり29件おこなった。訪問前に写真付きのチラシを回覧していたことで、顔を覚えていただいていた世帯があり、効果があったと思われる。

【6】指定管理業務

1. 南陽市健康長寿センター・デイサービスセンター管理経営事業

《南陽市健康長寿センター利用状況》

	健康 教育室	診察室	栄養 指導室	生活 訓練室	創作 研修室	こども の広場	交流 スペース	月別人数 合計	月別利用 回数
4月	264	27	98	82	134	37	22	664	54
5月	368	18	161	76	92	81	36	832	54
6月	396	112	135	111	188	103	10	1,055	93
7月	466	102	185	54	154	106	18	1,085	79
8月	255	72	97	59	89	65	30	667	62
9月	666	116	188	189	502	97	33	1,791	88
10月	488	85	129	124	145	116	16	1,103	83
11月	471	213	199	203	168	95	28	1,377	94
12月	583	199	170	184	237	91	81	1,545	83
1月	389	86	216	95	138	98	26	1,048	61
2月	483	168	162	96	136	109	27	1,181	81
3月	368	102	160	154	197	62	24	1,067	79
会議室別 人数合計	5,197	1,300	1,900	1,427	2,180	1,060	351	13,415	911
会議室別 利用回数	210	74	88	142	165	193	39		
開設時（平成6年4月）からの会議室利用者数							開設時（平成6年4月）からの 会議室利用回数		
361,012人							14,274回		

2. 老人いこいの家管理経営事業

高齢者に対する一日保養施設として定着しており、はつらつくらぶ事業の拠点としても活用されている。近年老朽化が進んでいるため、施設管理に注意をはらい、安心してご利用いただけるよう配慮した。

《月次・曜日別利用状況》

月	利用 者数	開荘 日数	一日平均 利用者数	曜日別利用者数（人）					
				火	水	木	金	土	日
4月	405	26	15.58	77	89	35	61	83	60
5月	358	26	13.77	94	89	64	37	23	51
6月	321	26	12.35	70	91	44	58	17	41
7月	415	27	15.37	78	78	103	72	42	42
8月	296	22	13.45	63	55	88	34	20	36
9月	337	26	12.96	64	100	58	59	23	33
10月	344	26	13.23	68	78	42	46	51	59
11月	433	26	16.65	96	99	62	82	50	44
12月	373	24	15.54	75	85	52	50	43	68
1月	388	24	16.17	114	82	31	47	48	66
2月	401	25	16.04	77	101	69	39	37	78
3月	471	27	17.44	72	95	61	77	96	70
計	4,542	305	14.89	948	1042	709	662	533	648

【7】介護保険事業

1. 居宅介護支援事業

一人ひとりの生活の中で、ニーズや心身の状態、環境等を踏まえ希望する必要なサービス等を利用できるようケアプランを作成し、要介護状態になっても住み慣れた地域で尊厳のある生活が継続できるように支援した。また、地域包括支援センターと連携を図り、支援困難な多問題ケースへの対応や連絡調整の強化に努めるとともに、南陽市介護予防支援事業を受託し要介護状態に至らないよう自立支援プランを作成した。要介護認定者数の増加に伴い、介護保険認定調査を南陽市及び近隣市町から業務を受託し認定更新者や新規申請者の訪問調査を実施した。

人権擁護・高齢者虐待防止連絡会など各種関係機関の研修会を通してネットワークを深め、虐待防止の推進にも関わった。

【介護支援専門員の業務内容】

- 要介護認定業務・・・介護保険認定調査（受託）
- ケアマネジメント・・・相談援助、ケアプラン作成、課題分析、サービス事業者調整
- 給付管理業務・・・給付実績管理、介護給付費請求事務
- 地域ケア グループホーム運営会議 高齢者虐待防止連絡会 出前介護講座

2. 訪問介護事業

利用者一人ひとりが、生活の質を維持、向上することができるよう介護支援専門員や関係団体と連携を図りながら個別援助計画を作成し、適切な介護サービスの提供に努めた。一人暮らしや高齢者夫婦、日中家族不在等の高齢者が多く、本人や家族とコミュニケーションを図り、希望や要望に応えながら、地域や日常生活の中で生きがいを持って生活できるよう支援した。また、利用者の状態の変化に合わせて訪問回数や時間など柔軟に調整し、介護支援専門員等と連携を図りながらニーズに合わせた訪問介護を実施した。近年、医療関連の利用者や認知症高齢者が増加していることから、公的機関が主催する専門研修会を積極的に受講し職員の介護技術・資質の向上に取り組んだ。

【訪問介護サービスの概要】

(1) 身体介護

- 入浴介助・・・入浴・洗髪・シャワーなどによる保清
- 清拭・・・入浴の困難な方には身体を拭く 食事介助・・・食事摂取の介助
- 排泄介助・・・排泄の介助や誘導、オムツ交換など
- 衣類の交換・・・着衣の交換及びベッドメイキングなど

(2) 生活援助

- 調理・・・ご契約者分の食事作り 洗濯・・・ご契約者の衣類などの洗濯
- 掃除・・・ご契約者の居室の掃除
- 買い物・・・ご契約者の日常生活上、必要な物品の買い物

《障がい者自立支援事業》

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
時間	30	29	30	30	30	30	29	29	30	30	27	29	353
人数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24

3. 通所介護事業

利用者本人が身体機能の維持、自立した生活ができるよう援助計画を作成し、快適で安心なサービスが提供した結果、過去最高の利用延べ人数 8,157 人（昨年比 152 人増）を受け入れることができた。震災後の余震が続く中、機械設備等の保守点検を随時行い業務に支障をきたさないよう配慮した。また、夏場の節電対策や暑さ対策としてセンターの周囲にグリーンカーテンを作り、利用者の健康管理に努めた。車いす利用者の方が増え、送迎時間にも影響が出てきたが、2月に山形放送「愛は地球を救う」チャリティー委員会より福祉車輛を寄贈していただき効率化が図られるようになった。

24年度の介護保険改正・報酬改定による学習会や検討会を開催し、様々な課題を協議し円滑に移行できるよう準備を進めた。

なお、当通所介護事業所が提供する利用者の介護度・支援度別人数及び介護予防を含む日常サービス内容は次のとおりである。

※平成24年3月31日現在

介護度	要支援 1	要支援 2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計
人 数	15	26	25	16	13	16	2	113

【通所介護サービス及び介護予防サービス提供内容】

- 日常生活の援助・・・排泄介助、移動介助、その他必要な身体介助
- 健康状態の確認・・・バイタルチェック、状態見守り、医療処置、緊急時の対応等
- 食 事 の 介 助・・・季節に添った食材の提供及び調理、食事摂取介助
- 機 能 回 復 訓 練・・・レクリエーション、行事的活動、趣味活動、日常生活動作訓練
- 相 談 ・ 助 言・・・本人及び家族に対する日常生活の介護、看護の相談・助言

《平成23年度 福祉関係受賞者》

【山形県知事表彰受賞者】

- ・ 村 越 恵 美 子 様
(社会福祉協議会職務優良永年勤続・職員への指導育成の功績)

【山形県県民福祉大会会長表彰受賞者】

- ・ 鈴 木 叡 子 様
(ボランティア全般の実践・育成・指導の功績)
- ・ 高 橋 チ ヨ 子 様
(ボランティア全般の実践・育成・指導の功績)
- ・ 南陽市立小滝小学校 様
(学校教育における福祉学習やボランティア育成の継続の功績、
地域社会へのボランティア実践活動の功績)

【南陽市社会福祉協議会会長表彰活動功労者】

- ・ 南陽市立漆山小学校 様 (地域福祉の模範)
- ・ 渡 部 昭 季 治 様 (地域福祉の模範)
- ・ 栗 野 栄 一 様 (地域福祉の模範)
- ・ 後 藤 喜 七 様 (地域福祉の模範)
- ・ 高 梨 忠 治 様 (地域福祉の模範)
- ・ 江 口 實 様 (地域福祉の模範)

【南陽市社会福祉協議会会長感謝状授与者】

- ・ 片 桐 隊 様 (東日本大震災支援 募金ボランティア)

平成23年度南陽市社会福祉協議会関連会議等

開催年月日	事業・会議名	会場・開催場所
平成23年 4月20日	県共同募金会都市支会常務理事会議	県総合社会福祉センター
平成23年 4月26日	ボランティア友の会総会	南陽市中央公民館
平成23年 4月27日	置賜ブロック老人クラブ連合会連絡会議	小国町老人福祉センター
平成23年 4月27日	基幹的社協専門員会議	県総合社会福祉センター
平成23年 5月 1日	辞令交付式	市健康長寿センター
平成23年 5月 9日	市老人クラブ連合会総会	南陽市中央公民館
平成23年 5月20日	宮内地区教育ネットワーク全体会議	文化センター
平成23年 5月25日	置賜地区青少年教育推進会議	置賜総合支庁西庁舎
平成23年 5月25日	置賜地区交通安全対策協議委員会	置賜総合支庁
平成23年 5月27日	高齢者地域支え合い事業連絡会議	県総合社会福祉センター
平成23年 5月31日	置賜地域生活福祉・就労支援協議会	米沢職業安定所
平成23年 5月31日	山形県民間社会福祉事業振興会総会	県総合社会福祉センター
平成23年 6月 3日	置賜二市二町社協職員連絡会議	川西町診療所
平成23年 6月 7日	市町村社協事務局長会議	県総合社会福祉センター
平成23年 6月 9日	置賜三市五町社協職員連絡会議	赤湯温泉 御殿守

開催年月日	事業・会議名	会場・開催場所
平成23年 7月 4日	被災地支援活動派遣 片平事務局長（～11日）	宮城県気仙沼市
平成23年 7月 8日	ブロック別市町村社協生活福祉資金担当者会議	すこやかセンター
平成23年 7月14日	献血運動推進全国大会	ビッグウイング
平成23年 7月14日	老人クラブ連合会東北リーダー研修会（～15日）	天童ホテル
平成23年 7月15日	基幹的社協専門員連絡会議	県総合社会福祉センター
平成23年 7月21日	安全運転管理者講習会	南陽市役所
平成23年 7月25日	置賜ボランティアの輪連絡会議	白鷹町健康福祉センター
平成23年 7月28日	安全運転管理者研修会	米沢市すこやかセンター
平成23年 9月 3日	エクレールお菓子放浪記上映会	蔵楽
平成23年 9月 5日	共同募金会郡市支会事務局長会議	県総合社会福祉センター
平成23年 9月13日	ボランティアコーディネーター養成講座	山形市総合福祉センター
平成23年 9月15日	災害ボランティア説明会	中央公民館
平成23年 9月16日	いちょうの家バザー実行委員会	いちょうの家
平成23年 9月30日	基幹的社協専門員連絡会議	県総合社会福祉センター
平成23年10月 1日	いちょうの家福祉バザー	いちょうの家
平成23年10月11日	置賜老ク連会長女性代表担当者会議（～12日）	小国町梅花皮荘
平成23年10月11日	市民生委員児童委員協議会自主研修会（～12日）	宮城県
平成23年10月13日	整備管理者講習会	すこやかセンター
平成23年10月15日	やまがたゆきみらい～雪サロン in 置賜	山形大学工学部
平成23年10月16日	鶴岡市藤島地域関根老人クラブ視察研修	市健康長寿センター
平成23年10月25日	県老人福祉大会	尾花沢市体育施設
平成23年10月26日	山形県市町村克雪体制講習会	県自治会館
平成23年10月27日	13市社協常務理事・事務局長会議（～28日）	むつみ荘
平成23年10月28日	改正育児・介護休業法説明会	アクティー米沢
平成23年11月10日	民間社会福祉事業振興会事務担当者会議	天童ホテル
平成23年11月18日	基幹的社協専門員連絡会議	県総合社会福祉センター
平成23年11月11日	ワンストップサービスデイ事前打ち合わせ会	ハローワーク米沢
平成23年11月15日	山形県・県民福祉大会	鶴岡市文化会館
平成23年11月17日	介護保険事業計画策定委員会	市役所
平成23年11月17日	置賜社会教育振興大会	高島町中央公民館
平成23年11月18日	置賜三市五町社協役員研修会	飯豊町がまの湯
平成23年11月22日	市長・文教厚生常任委員・民児協・社協懇談会	ハイジアパーク南陽
平成23年11月24日	多重債務対策意見交換会	市民会館
平成23年11月28日	災害対応のための情報交換会	置賜総合支庁
平成23年12月 1日	ワンストップサービスデイ	ハローワーク米沢
平成23年12月 9日	基幹的社協専門員連絡会議・研修会	天童市社協
平成23年12月14日	置賜ボランティアの輪連絡会議	白鷹町健康福祉センター
平成24年 2月 1日	市障害者計画・障害者福祉計画策定協議会	市役所
平成24年 2月 4日	社会福祉士実習指導者講習会（～5日）	東北福祉大学
平成24年 2月 7日	置賜地区青少年教育推進会議	置賜総合支庁西庁舎
平成24年 2月16日	おきたま福祉有償運送ネットワーク	市健康長寿センター
平成24年 3月 2日	避難者生活支援相談員連絡会議	市健康長寿センター
平成24年 3月 2日	基幹的社協事務局長・専門員連絡会議	県小白川庁舎
平成24年 3月23日	おきたま福祉有償運送ネットワーク	市健康長寿センター